

立山三山癒し山旅報告

(山 域) 北アルプス北部 立山

(コース) 室堂⇒一の越山荘 (写真撮影で浄土山往復) ⇒雄山⇒大汝山⇒富士の折立⇒真砂岳⇒別山⇒劔御前小舎⇒雷鳥平⇒室堂

(日 時) 平成 30 年 10 月 5 日 (金) 夜発⇒8 日 (月) 2 泊 3 日

(天 候) 6 日 (土) 快晴 7 日 (日) 強風/雨 8 日 (月) 快晴

(参加者) CL 田中 (行動記録)・SL 斉藤健・磯部 (会計/記録)・会員外 (U さん) 1 名

(山行タイム) 6 日：扇沢 6：30⇒室堂 8：30⇒ミクリガ池 (写真撮影) 9：15～9：50⇒一の越 11：40
小屋受付後に写真撮影で浄土山往復⇒13：00 (一の越山荘泊)

7 日：台風が日本海通過中につき山荘で待機⇒一の越山荘 9：00⇒雄山 10：00⇒大汝山⇒富士の折立⇒真砂岳⇒別山⇒劔御前小舎 13:25 (劔御前小舎泊)

8 日：劔御前小舎 6：50⇒雷鳥平 9：10⇒ミクリガ池で大休憩⇒室堂 11：10⇒扇沢 13：30



【風雨の中で雄山山頂を踏んだメンバー達】

(山行報告) 6 日：台風 25 号の日本海通過予想が 3 連休の真ん中にぶつかる中でギリギリ迄、情報収集と決行可否を悩むが、日本海の大陸側を通過予想と北海道放送の専門天気図及び登山天気予報を検討の結果、6 日・8 日は概ね行動可能日、7 日は台風通過による強風と雨は避けられないが、小屋で最も風の強い時間帯の朝 9 時まで待機すれば行動可能と判断し決行を決めた。何時もの通りに扇沢を 1 番 (6：30) のトローリーバスで黒部ダムに入る。

ここで下の廊下に単独で行く古関さんに偶然に会い互いに健闘を誓い、我々は一路室堂に向

かう。室堂からは、快晴の立山連峰と劔岳の写真撮影を兼ねて、ミクリガ池へ寄り、温泉宿の美味しいコーヒータイムとなった。（癒しの山旅の神髄はこれにある。）

今夜の宿は一の越山荘でゆっくり歩いても2時間で着いてしまう道のりで、昼前に着いてしまった。



【室堂～一の越からの紅葉に彩る立山連峰】

受付後に浄土山方面に写真撮影に向かうが、それでも有り余る時間をお酒と時々、外にて快晴の山並みと台風で変化の激しい夕焼け雲の撮影をしつつ本日の行動を終える。

風の子告する様な夕焼け雲と燃える紅葉に彩る立山連峰



7日：夜中より台風通過のため外は、うなりをあげて風と雨が吹いていた。朝食の後も9時出発と決めてあり、のんびりと風雨が下降気味に成るのを待つ。（風速20m以下に成るのを待つ）8:30に出発準備に入り9時に行動を開始、いまだ十数メートルの風と雨であるが南風で、雨具のお陰でそんなには寒くはないと私は感じ、食物を両ポケットに入れさせ、寒さを感じたら何時でも食べられる様に対策し、全員にヘルメット着用とシートベントで簡易スワミベルトを作り、IさんとCLはロープで結び充分に対策をしてから登りだす。

雄山までは岩場の登山道を慎重に選んで風に常に気を使い、ゆっくりゆっくりと前進した。山頂社務所前の軒下でまずは第一難関を超えた喜びとエネルギー補給と衣類調整を行い、大

汝山へ向かう。大汝山までは下り道で転倒と突風に注意し進む。茶屋はすでに閉鎖され、小屋の陰で風を避け休憩をとる。

この先、真砂岳から別山に向かう道は、稜線が広くなり歩き安くなるが、風は弱くなりつつ有るが、相変わらず風雨は吹きつける中を進んで行く。

途中のハイマツの灌木の中で風避けの休憩をとり、別山は天候不良のため巻道を行くと、ダンダンと、劔御前小舎が近づく気配を感じながら霧の中で、この方向に劔沢、この方向に劔岳が見えると話して行くうちに、小屋の屋根が見え風雨の中での行動を終え握手にて、1日を終える。(山小屋は乾燥室が動いていて濡れた衣類が乾き有難かった。)



【悪天を超え劔御前小舎にて歓喜の握手】



【安堵のひと時】👍

8日：昨夜の満点の星から快晴に成るのを確信し朝を迎え皆、思い思いに赤く染まる山並みの撮影を終えてからゆっくりと下山を開始する。

雷鳥坂の下りではSさんの写真撮影の指導を受けながら紅葉の山を撮影しつつ、ノンビリノンビリと下り、途中のミクリガ池温泉のケーキセットでお茶タイムと洒落込み癒しの山旅を満喫する。室堂からは一路、帰途につき、扇沢へ戻り途中の大町温泉で汗を流して渋滞の中央道から23時前に自宅に帰り着いた。





【試練とあこがれの劔岳】



【癒しの真髄はこれ！】

山旅 「立山三山」にて学んだこと

山への想い：磯部

田中会長が募集した、山旅に参加させて頂いた。

関西方面に大きな被害をもたらした 24 号が去ったばかりというのに、すぐに 25 号の影響が心配される中、行先変更も含め検討し頻繁に連絡を下さり、最終判断は予定通り実施ということになった。決断の根拠として天気図も添付していただき、山をやらない家人の心配も拭われたようだ。

扇沢駐車場にテントを張るときは満点の星空、翌日の好天を期待して就寝につく。

翌日は晴天、ナナカマド、ダケカンバの赤と黄色が互いを引き立て合っている。

観光客に混じり黒部ダムに到着、下の廊下を目指す小関さんに会うことができた。

終点の室堂は外国人を含む観光客でごった返していた、快晴の空に明日登る立山三山が堂々と鎮座している。



【一の越の空は晴れて夕焼け雲】

一の越山荘までは整備された歩きやすい道、山荘は清潔で水が豊富、食事は中というところ、一部屋に 2 人で寝る贅沢な夜を過ごした。

夕方、強風に耐えシャッターチャンスを待った斎藤さんは、素晴らしい写真を撮られていた。

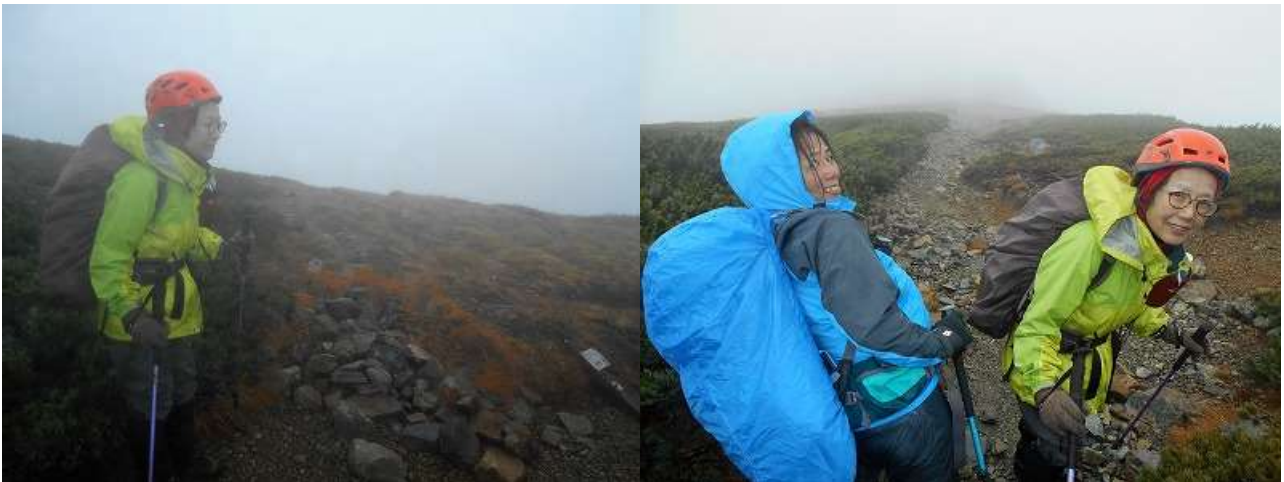
7日は予報通り朝から強風と雨、チェックアウト 9 時まで待ち、僅かに風が弱まったので、カッパ、ヘルメット、シートベント、スパッツなど身支度を整え出発。

私は手袋を一つしか持っていなかったが、濡れた時のため予備の用意とビニール製のキッチン手袋も役立つというアドバイスを受けた。

雄山までの1時間の急登を、富山湾から吹き付ける雨に近い霧を含む風を左から受けながら進み雄山神社に到着した。カッパを着ているので暑いかなと思っていたが、体が冷え切って寒いのでカッパの下にフリースを着てほっとした。他のメンバーは着ないままだったが、私は小屋到着まで汗をかかなかった。今考えるともしあの時着なかったら、低体温症を引き起こしていたかもしれない、田中さんがおっしゃっていた感覚を研ぎ澄ます、その大切さに身をもって体得した。休憩ごとにカロリー補給のためチーズ、キャラメル、パンなどを口にする。

(炭水化物を食べることでエネルギー補給し震えて筋肉が動いて(生きて)いると確信できる。田中記)
風は相変わらず容赦なく吹き付けているが、「風に乗って飛んじゃおう〜」と歌う田中さんの声にリラックスできた、どんな風でも雨でも戦うのではなく楽しむ余裕が大切であることを知る。

大汝山を経て、富士の折立、真砂岳、別山を通るが視界はゼロ、本来なら剣岳は勿論素晴らしい眺望のはずだが、想像を楽しむしかない。



【必至の前進と癒しの瞬間】

剣御前小舎は明日の剣岳を目指す人たちで賑わっていた。強力ヒーターを備え付けた乾燥室にて、濡れた衣類を乾かす。ザックカバーをしていたが、リュックの中まで雨が浸みていた、出発前の連絡に必ずビニールの中袋に入れておくようというアドバイスがあったが納得、乾いた着替えがあつて本当に良かった。夕食までの時間は単独の女子との楽しい時間であった。夕食後、空は晴れて夕焼け、奥大日、大日岳が雲海の中に浮かび、その遥か向こうに加賀白山が島のように浮かんでいる。





【ミクリガ池にて】

翌日は「星がきれい」という声で目覚め厚着をして外へ、生涯で2番目の満天の星の美しさ、天の川の密度が濃い。朝食後、夜明け前の剣岳を見た、何度見ても深い山壁と紫に近い岩の色にひきつけられる。下りは、快晴のもと真っ赤なナナカマド、チングルマの草紅葉の間を下る、時間に余裕があり写真を撮りながら歩く。写真家斎藤さんがスマホでのピントの合わせ方を教えて下さり驚く、被写体の見方構え方、何をどう撮るかを学ぶ、ナナカマドの実のとらえ方、青空とのコントラストなどなど、まさに目からウロコ！である。シラタマに雪が凍り付いているのを撮ることができて、自己満足。

気持ちの良い雷鳥沢キャンプ場を経て、最後の長い階段を登り切ったところのミクリガ温泉には、チーズケーキと紅茶のご褒美が待っていてくれた。 【左：サー帰ろう。 右：氷雨と朝露の芸術】



「あと一人募集」を見て、予定していた計画が中止になり、どこかに行きたいなと思っていたところの渡りに船、とばかりに参加させて頂いたが、お二人のベテラン講師による個人授業を受けることができ、本当に幸運な山行となった。



【地獄谷とナナカマド】



【室堂にゴール】

帰路の車の中でも、ちば山の会の運営についてお聴きすることができ、私もやれることからやっていかなければと気持ちを新たにする機会となった。田中さん、斎藤さん本当にありがとうございました。